

# 独立行政法人国際協力機構

## 北海道センター（帯広）の取組①

取組のタイトル	研修員受入事業
取組の時期	（始期）平成8年～ 継続中
関連するSDGsのゴール・ターゲット	
取組内容	<p>JICA では、開発途上国において国づくりの中心となる行政官や技官をわが国に招き、技術や知識の習得を支援することを目的として実施しています。</p> <p>JICA 北海道センター（帯広）では、国や地方自治体（北海道、帯広市、釧路市など）、教育機関（帯広畜産大学、北見工業大学など）、各種団体、民間企業などの協力を得て、年間 300 名超の研修員を受け入れています。農畜産分野や自然環境保全分野を中心に、教育、保健医療、資源・エネルギー、平和構築等、多岐に亘る研修コースを実施しています（2022 年度の受入実績：305 名、2023 年度の受入予定：375 名）。</p> <p>研修コース例： ①アジア地域 市場志向型農業振興（行政官） 野菜や果物を生産する小規模農家の「作って売る」から「売るために作る」への意識変革を起こし、小規模農家の所得向上を目指す研修コースです。</p> 

## ②自然環境行政官向けのエコツアーリズム

釧路湿原をはじめとする道東地域を舞台に、自然環境の「保全」と「利用」の調和を図りながら、地域振興にも資する環境・観光行政の在り方を考える研修コースです。



## ③戦略的マネジメント・マーケティングによる持続的地場産業振興



農林水産物の生産→加工→流通→消費の各工程を包括的に捉える、持続可能なフードバリューチェーン構築に向けて、自国の現状に即した地域振興政策やビジネスモデルを作成・実行し、SDGsの達成を目指す研修コースです。

参考 URL :

<https://www.jica.go.jp/domestic/obihiro/activities/kenshu/index.html>

# 独立行政法人国際協力機構

## 北海道センター（帯広）の取組②

取組のタイトル	草の根技術協力事業
取組の時期	（始期）平成16年～ 継続中
関連するSDGsのゴール・ターゲット	    
取組内容	<p>JICA では、開発途上国の経済及び社会の開発等を目的として、日本の NGO/CSO、その他民間の団体、地方公共団体または大学が、当該団体が有する技術、知見、経験を生かした国際協力活動を提案した場合、当該団体との協力関係のもとに、共同で「草の根技術協力事業」を実施しています。</p> <p>本事業は、対象国の SDGs 課題解決に資するものであり、当該団体が本事業を通じて培った経験を活用し、日本の地域社会が直面する課題解決や地域の活性化に役立つ取組を行うことも期待されています。</p> <p>本事業は、活動または成果報告等を通じて、広く日本の市民の国際協力への理解・参加を促す機会となっており、SDGs 推進に貢献しています。</p> <p><b>【事例1】</b> 対象国：モンゴル 事業名：路床の凍上性に着目した首都ウランバートル市内における道路の質的向上に向けたプロジェクト</p> <p>寒冷地の道路は、寒気によって地表面が冷却されると土中の水分が凍結して隆起する凍上現象が発生するため、道路工事の際には凍上対策を行う必要があります。その知識は北海道の道路建設に携わる技術者に広く知られていますが、冬期の気温が-30℃前後になるモンゴルでは、道路舗装における凍上対策が十分ではなく、道路の凸凹や亀裂が頻繁に発生しています。</p> <p>そこで、北海道北見市は北見工業大学と連携して、モンゴルの道路建設に携わる行政関係者・技術者・研究者が、凍上現象に関する知識及び凍上性判定に基づく地域特性を理解できるよう草の根技術協力事業を提案しました。本事業では、社会・経済を支える持続可能なインフラ整備の推進に取り組んでいます。</p>



## 【事例 2】

対象国：キルギス

事業名：地域におけるフードバリューチェーンを活用した実践的な農業教育プロジェクト

キルギスでは農業が基幹産業である一方、農地の私有化による小農化が進んだ結果、各農家の栽培技術の低下や農産品物流システムの崩壊を招き、「生産→加工→販売→輸出」の農業バリューチェーンが分断される事態に至っています。本事業では、農畜産物の付加価値化及びバリューチェーンの重要性を理解した農業人材を育成するため、キルギス国立農業大学附属農業技術カレッジの能力強化を図ります。具体的には、実践的な農業教育を行う北海道士幌高校の協力も得ながら、共通の特産品であるシーベリーを用いた商品開発、実践的な農業教育の手順書（指導法）の作成に取り組んでいます。

参考 URL：

<https://www.jica.go.jp/domestic/obihiro/activities/kusanone/index.html>

# 独立行政法人国際協力機構

## 北海道センター（帯広）の取組③

取組のタイトル	開発教育／国際理解教育支援事業
取組の時期	（始期）平成8年～ 継続中
関連するSDGsのゴール・ターゲット	
取組内容	
<p>JICA は、小中高生、教員、一般市民の方々向けに、講義や見学、ワークショップ等を通じて、開発途上国と日本・北海道のつながりをご理解頂く機会を提供する「開発教育／国際理解教育支援事業」を実施しています。</p> <p>JICA 北海道センター（帯広）の館内には、世界が直面する課題や解決への取組を楽しく学べる体験型展示スペース「おびるつく」を設けています。臨場感あふれる VR 映像体験で道東地域や世界の現場を体感できる映像スクリーンコーナー、SDGs の常設展示（各国の達成度が色で分かるダッシュボード、SDGs 立体パズル、SDGs クイズ、SDGs 各ゴール説明パネル等）、十勝と世界のつながりを学べる展示等、年齢を問わず楽しめる内容です。帯広市のふるさと教育事業「おびひろ市民学」の一環として、市内の全中学校が JICA 北海道センター（帯広）へ来館し、SDGs や開発途上国について学びを深めています。他市町村も含め、このような学校訪問受入、訪問者への SDGs ワークショップや国際理解に繋がる体験談講話を行っています（2022 年度実績：59 団体、約 1,840 名来訪）。</p> <p>また、教員向けの「国際理解教育セミナー」、高校生向けの「高校生国際協力体験プログラム」をそれぞれ実施し、ワークショップ形式で SDGs や開発途上国、多文化共生等について学んで頂いています。</p> <p>「JICA 研修員学校訪問」では、JICA 研修員が道東地域の小中高校を訪問し、児童・生徒と交流を深めることで、児童・生徒、研修員の双方にとって貴重な体験となっています。</p>	







参考 URL :

<https://www.jica.go.jp/domestic/obihiro/activities/kaihatsu/index.html>

# 独立行政法人国際協力機構

## 北海道センター（帯広）の取組④

取組のタイトル	外国人材受入・多文化共生社会支援事業
取組の時期	（始期）平成8年～ 継続中
関連するSDGsのゴール・ターゲット	 
取組内容	<p>あらゆる国籍の方にとって暮らしやすい北海道、地域の方が多様な文化に触れて豊かで優しい北海道とするために、JICA は地方自治体や地域の関係者とともに様々な取組を進めています。</p> <p><b>【事例1】</b> 多文化共生イベント「JICAfe（ジャイカフェ）」 2022年より、釧路市に配置した国際協力推進員（外国人材・共生）と協働し、釧路・根室地域を舞台に、対面やオンラインで開催しています。国内の地域コミュニティで暮らす外国人の社会参加及び地域住民の多文化共生への理解促進を図ることで、多文化共生社会を共に推進する日本人、外国人双方の担い手を育み、国内地域からグローバル・パートナーシップの活性化を図っています。</p> <p>対面では、道東地域在住の JICA 海外協力隊経験者による体験談及び相談会、活動写真パネル展、民族衣装展示などを行い、地元自治体（釧路市、中標津町）による多文化共生に関する情報提供、札幌出入国在留管理局釧路港出張所による在住外国人向け無料相談会、多文化共生を推進する各団体によるブースを同時開催しました。またオンラインでは、地方創生×多文化共生の最前線で活躍する外国人、地方自治体、外国人受入機関、JICA 海外協力隊経験者等にスポットを当て、リレー型オンラインサロンとして開催しました。</p> <p><b>【事例2】</b> 世界の人びとのための JICA 基金活用事業 JICA 北海道センター（帯広）ではSDGsの達成に向け、個人や団体、法人等からの寄付を活用し、国内外で活動する各種団体（NGO や NPO など）の活動を支援する「世界の人びとのための JICA 基金活用事業」を実施しています。2023年度は、道東地域の2団体（一般社団法人にほんごさぼーと北海道、釧路自主夜間中学「くるかい」）から提案のあった日本学習支援事業2件を採択しました。</p>

### 【事例 3】

多文化共生イベント「オホーツク国際フェスタ」

2023 年 6 月、北見市に配置した国際協力推進員（外国人材・共生）と協働して開催しました。日本人が海外文化を知ることや体験することに加え、在住外国人が日本文化を体験しながら市民と交流することを目的としています。10 以上の団体のご協力により実施し、来場者は 250 名以上。留学生や技能実習生など多くの外国人も来場し、茶道やおりがみといった日本文化体験、地域資源の玉ねぎの皮を活用した絞り染め体験、料理を通じた国際交流等のプログラム等に参加されました。



### 【事例 4・5】

国際交流イベント「世界のともだち」（毎年 7 月）、「国際フェスタ in とかち」（毎年 2 月）

「世界のともだち」は帯広市及び十勝インターナショナル協会との共催、「国際フェスタ in とかち」は十勝インターナショナル協会との共催で、それぞれ開催する国際交流イベントです。世界中の料理を提供する屋台、地域団体によるステージパフォーマンス、開発途上国や十勝にゆかりのある団体による物品販売、民族衣装の試着撮影会、JICA 研修員との交流、多文化共生事業に取り組む団体によるブース出展等を通じて、市民の国際理解を促進するとともに、外国人と日本人と交流の場を提供しています。









参考 URL :

<https://www.jica.go.jp/Resource/partner/private/kifu/01.html>



# 独立行政法人国際協力機構

## 北海道センター（帯広）の取組⑤

取組のタイトル	サステナビリティに配慮した施設運営
取組の時期	(始期) 令和4年4月～ 継続中
関連するSDGsのゴール・ターゲット	     
取組内容	<p>JICA 北海道センター（帯広）は、道東地域における国際協力の拠点として、1996年4月にオープンしました。道東地域と開発途上国の結節点として、途上国の課題解決に取り組むとともに、地域の活性化や国際化にも貢献しています。SDGsのスローガンである「誰一人取り残さない」社会の構築を目指して、様々な方々に安心してご利用いただけるよう、サステナビリティに配慮した施設運営に取り組んでいます。</p> <p>&lt;設備・サービスの一例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個室型授乳室</li> <li>・点字ブロック</li> <li>・オストメイト対応トイレ、車椅子対応トイレ</li> <li>・自動体外式除細動器（AED）</li> <li>・人感センサーによる自動点灯・消灯照明の導入</li> <li>・子どもも使いやすいレストラン（子供用の椅子やカトラリーを用意）</li> <li>・イスラム教徒へ配慮した食事（ハラール・フード）の提供</li> <li>・レストランでのフェアトレード商品の販売</li> <li>・子ども向けの外国絵本も所蔵する図書資料室</li> <li>・バリアフリー対応の宿泊部屋</li> </ul>



参考 URL :

<https://www.jica.go.jp/domestic/obihiro/office/shisetsu.html>